

はまぼうふう vol.35 2010.8.4.

石狩浜海浜植物保護センター通信

HP 上ではカラーでご覧になれます

ハマボウフウ その魅力

7月10日、11日に開催したふるさと海浜フォーラムの発表には、地元も含め9つの団体が参加、また活動紹介写真展を含めると23団体の参加がありました。(詳細は2ページ)

海辺環境の保全をテーマにしたフォーラムでしたが、第二のテーマは「ハマボウフウ」。花、風味、生態、魅力を感じる理由は人それぞれです。

ハマボウフウは、一般的に浜防風、八百屋防風などと呼ばれています。白い花は、咲き始めは繊細なレースのようですが、時間がたてば丸いボールのようなボンボンになります。若い莖葉は天ぷらや刺身のつまとして食卓に上がり、根は薬草として風邪に効きます。強風に耐え、砂丘に根を下ろし、一見たくましくも、決して単独で生きるのではなく、他の植物とともに生きる。

日本中に生育するハマボウフウですが、地域によってその性質に何か違いがあるのでは？と研究に乗り出すグループ。栽培方法や販路を模索し、地場産物としての流通を目指すグループ。群生地再生をめざす地域。「ハマボウフウ」に、人や地域をつなぐ力を感じた2日間でした。



7月半ばのハマボウフウの花
咲き始めて1週間ほどで、
花は丸いボンボンのような形になる。

企画展

海浜植物を詠む

～俳句を散策の友に～

海浜植物を詠んだ俳句を紹介します。一句一句が海浜植物の魅力と美しさを引き出しています。これをまとめた冊子も無料配布。

展示期間：8月26日(木)～9月12日(日)

会場：海浜植物保護センター展示室

海辺の自然教室

ハマナスの実でジャムをつくります。

日時：9月4日(土) 13:30～16:00

集合：13:20 海浜植物保護センター

対象：小学生以上(3年生以下保護者同伴)

定員：20名(先着順)

参加費：中学生以下100円 高校生以上300円

申込み：9/1(水)までに海浜植物保護センターへ

石狩浜秋の野鳥観察会

(川の博物館主催)

渡り鳥や秋の花・実を観察しながら石狩川河口を散策します。

日時：9月11日(土) 9時～12時

集合：9時海浜植物保護センター、または石狩市内送迎バスご利用希望の方は申込み時にご確認を。

対象：小学生以上(3年生以下保護者同伴)

定員：30名(先着順) 参加費：無料

申込み：9/5(日)までに川の博物館へ(月曜休館)

tel.0133-64-2507

企画展

石狩砂丘のきのこ展

(NPO法人北方菌類フォーラム主催)

海辺で見られる「きのこ」の意外な生態を標本やパネルで紹介します。

展示期間：9月15日(水)～9月26日(日)

会場：海浜植物保護センター展示室

トークタイム(専門家と気軽に話そう!)

9/19(日)、9/20(月・祝)、9/23(木・祝)

いずれも10:30～12:00。展示会場で。

参加費：無料 申込み：不要

ふるさと海辺フォーラム開催しました

7月10日(土)・11日(日) 両日合わせ延べ102名の参加者により、「ふるさと海辺フォーラム・ハマボウフウネットワーク2010～自然豊かな海辺環境を次世代に残していくために～」を開催しました。

1日目の基調講演は(財)日本自然保護協会開発法子さんより、全国の海浜環境の現状と保全に向けた課題をテーマにお話いただきました。海辺の環境保全に関する活動発表は、神奈川県茅ヶ崎市 NPO 法人ゆい、宮城県名取ハマボウフウの会、同県七ヶ浜ハマボウフウの会、鳥取大学農学研究科、小樽市銭函海岸の自然を守る会、中標津町きたねむろ山菜エコランドの6団体が、各地の環境や活動の様子などについてお話ししました。



2日目野外視察の様子

2日目には、はまなすの丘海浜植物保護地区等をセンターボランティアさんらの案内で視察した後、石狩浜で活動する石狩浜定期観察の会、NPO 法人北方菌類フォーラム、専修大学北海道短期大学みどり総合学科のみなさんが調査研究活動の様子を、当センターが保全対策の状況について報告しました。

また、フォーラムにあわせて、各地の保全活動を紹介する写真展を開催し、北は北見市常呂高校、南は沖縄県クリーンコーストネットワークまで、19団体の活動の様子を写真展示しました。

本フォーラムを通して、各地のつながりが強まり、海辺環境の危機に向きあう意識を共有できたとともに、その保全には継続した地域の力が大切であるということを強く意識することができました。

また、海から陸への連続性の確保、生物多様性に富んだ海辺環境の保全・再生が欠かせないこと、その意識が浸透し、保全・再生に向けた取り組みが各地に広がるよう、今後、当センターでも様々な場面で発信していきたいと考えています。

本フォーラムを受けて、センターでは以下メッセージを「つながり」の視点から各地へ発信します。

海から陸への連続性と、生きもののつながりの確保・再生
地域に根ざした活動の継続
次世代へつなぐ活動

また、基調講演では、(財)日本自然保護協会による以下の提言について、お話がありました。

海岸植物群落保全のための10の提言

自然の海岸の保全と復元について

- 1 現存する自然の砂浜は保護地域として早急に保全策を講じる
 - 2 各地に基準となる自然状態の海岸を復活させる
 - 3 クロマツ保安林を見直し、砂浜の復元を図る
 - 4 外来種の侵入や定着を防ぐ
- 砂浜への人工物建設のあり方について
- 5 堤防はこれ以上造らない。必要な場合はできるだけ内陸側に造る
 - 6 侵食防止は、安易に堅牢な人工物を建設せず、原因を追究し、原因を排除する観点で対策を講じる
 - 7 人工物が海岸植物群落に与える影響についての科学的調査と検証を行なう

海岸の利用、管理のあり方について

- 8 NGO、市民参加の海岸保全・管理計画を策定し、海岸管理を行なう
- 9 海岸保全・管理に係る委員会、検討の場に生態学、環境社会学等の参画を得る

海岸の自然環境モニタリング調査の必要性

- 10 国の施策として、海岸の自然環境モニタリング調査を実施する

ふるさと海辺フォーラム報告書は、8月中旬以降ホームページ掲載予定です。

はまなすの丘で、平成元年の植生調査結果をもとに、20年経過した現在の植物分布の状況を精力的に調査している、寒河江洋一郎さんのイソスミレについてのレポート第2報です。

北限のイソスミレ”いろいろ

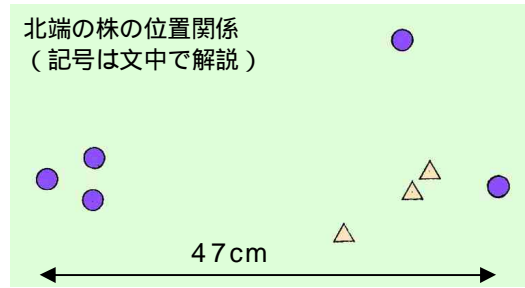
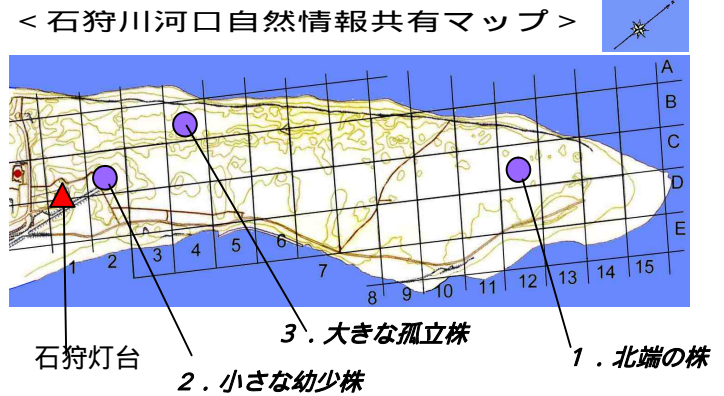
本紙 (vol.29 2009.2.4) に「北限のイソスミレ」の最近の分布状況を報告しました。その調査で見つけた「北端の株」「小さな幼少株」「大きな孤立株」を紹介します。本文中の初確認は個人的調査記録によるものです。他の面白そうな株は別の機会に紹介します。

1. 北端の株 ('08年初確認、C-12)

2008年に北端のイソスミレ株を見つけた時点で、株は寄り添って8株ありました。どれも直径5cm未満と小さくて根が浮き気味でした。2010年の調査の結果、2年間に3株減って現在は5株です。やっと生きています。

位置関係を右図で示します。●が生存株、▲が枯死株、両端の生存株間距離は約47cmです。

はまなすの丘(石狩川河口砂嘴)地形図
 <石狩川河口自然情報共有マップ>



5cm

2. 小さな幼少株 ('08年初確認、B-2)

2008年、堤防から木道に至る散策路を明確にするためのロープが張られ、それまで踏まれるなどしていた場所のものが発芽したようです。

発見当初は直径3cmほどの5枚葉の株だったのが、1年経って直径5cm超の20枚葉の株に成長し、2年経った今春には数個の花をつけました。今後の成長が楽しみです。(左写真、'10年撮影、コントラスト加工)



50cm超

3. 大きな孤立株 ('08年初確認、A-4)

ハマニンク独占の斜面で直径50cm超の孤立株に出会いました。丁度、本レポート1の北端の株をすべておおような円形の姿です。最寄りの株まで40mほど離れています。2年間ほとんど変化していませんが、右隣りにハマナスが出現したので心配です。(右写真、'10年撮影、コントラスト加工)

5月15日(土)海辺の自然塾第3回

「砂丘に生きる昆虫の世界」と題して小樽市総合博物館の山本亜生学芸員をお招きして、銭函海岸での昆虫相調査の結果をもとに、砂浜、砂丘草原、海岸林それぞれで見られる昆虫種とその生態についてお話いただいた後、石狩川河口を歩いて野外観察を行いました。

野外観察では、ハマニンニクの根際からシラフヒョウタンゾウムシ、コホネゴミムシダマシ、生物の死骸の下からはハマヒョウタンゴミムシダマシなど、海浜特有の昆虫を観察することができました。

6月12日(土)石狩浜・マクンベツ湿原自然観察会

石狩鳥類研究会の樋口さんと岩崎さんを講師に、ボランティアグループふるさと自然塾のメンバーをサポートとして、午前中ははまなすの丘、午後はマクンベツ湿原をまわり、野鳥と植物を観察しました。

はまなすの丘ではノビタキ、ノゴマ、ホオアカ、ヒバリ、ニュウナイスズメ、植物では最盛期のハマエンドウ、クゲヌマランやエゾスカシユリの花を観察しました。マクンベツ湿原は、今年は春先の気温が低かったため、予定していたカキツバタやキショウブの花がまだ開いていませんでした。最後にチュウヒ(ワシタカの仲間・絶滅危惧種)を見ることが

でき、観察できた参加者は満足気でした。

7月17日(土)海辺の自然塾第4回

「砂丘のアリたち～エゾアカヤマアリと生命のつながり～」と題して、北海道大学大学院地球環境科学研究院の東正剛教授をお招きして、野外観察を交えながらお話いただきました。

1980年代までは世界最大と言われた石狩浜のエゾアカヤマアリの営巣地ですが、1990年代以降、世界各地で外来侵入アリがスーパーコロニーを作っていることがわかり、石狩浜のエゾアカヤマアリのスーパーコロニーは世界一の座を降りたこと。車走行の増加など環境悪化のためか、石狩浜での巣の数は20年前と比べると著しく減ってしまい、その空白を埋めるかのように、ツノアカヤマアリという類似の種類が増えているようであること。しかし、石狩浜特有の環境(安定した広範囲のハマナス群落、雄や女王アリの飛翔時間帯に吹く陸から海への風など)がエゾアカヤマアリのスーパーコロニー形成に寄与していると思われること。エゾアカヤマアリの存在が、イモムシ類によってカシワの葉が過剰に食べられるのを抑えていると推測されること。などについてお話いただきました。

トビツク水槽のさかなたち

海浜植物保護センター展示室の中央には、大きな2つの水槽があります。ひとつは石狩川下流域の魚、もうひとつは石狩浜沿岸域の魚です。

川の魚は、センターで活動しているボランティアさんの一人が、発寒川などで捕まえ自宅で飼育していたものから提供いただきました。種類はフナ(ギンブナ)、コイ、モツゴ、タイリクバラタナゴです(写真上)。

海の魚は、道立総合研究機構中央水産試験場の研究の一環として、石狩浜で行った地引網に同行していただいたてきたもの(イシガレイ、ヌマガレイ)、職員が近隣の海で採取してきたもの(カジカ、イトマキヒトデ、ヤドカリなど)です。ちなみに海水は、石狩湾漁業協同組合さんから提供いただいています(写真下)。



問合せ 4/29～11/3: 石狩浜海浜植物保護センター 〒061-3372 石狩市弁天町 48-1 tel.0133(60)6107

申込み 11/4～4/28: 石狩市役所市民生活部内 〒061-329 石狩市花川北 6条 1丁目 30-2 tel.0133(72)3240

email. ihama@city.ishikari.hokkaido.jp

HP: <http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/kaihinsyokubutu/>